

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
11037	2	後期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	小児看護援助論Ⅰ (健康生活援助論) (Nursing Care of Children and Families I)				
担当教員名	○篠木絵理／富岡晶子／高山裕子／岡田弘美／小林朋佳				
授業の概要及び到達目標					
<p>本科目の授業を通じて1. 各期の成長・発達状況、発達課題、予測される健康課題、看護の役割、2. こどもの成長・発達を評価する方法、3. こどもの身体計測および状態観察技術を学ぶ。</p> <p>授業の到達目標は、こどもと家族をひとつのシステムとしてとらえる視点を養い、こどもの依存から自立に向かうプロセスへの援助を理解すること、乳児期から思春期までの各期の成長・発達の特徴を理解すること、またこどもと家族への援助に必要な基礎的知識を理解することである。また、授業内で少人数グループ学習や習熟度に応じたグループ学習に取り組むことで、看護チームにおいて主体的に活動する基盤を養うことを目標とする。</p>					
準備学習等					
<p>履修開始までに、生涯発達ケア論第5回～第7回（小児期の発達）の学習内容について、指定テキスト及び授業資料をもとに復習してください。</p> <p>各回授業で配布する「(小児看護援助論Ⅰ) ワークシート」は、生涯発達ケア論の学習内容及び本科目の指定テキストをもとに完成させ、関連の授業や予習・復習で活用してください。(予習・復習 30 時間)</p>					
成績評価の方法	<p>評価の基準は、次のとおりである。</p> <p>【筆記試験】80%</p> <p>最終試験及び中間での達成度評価（試験）により評価する。最終試験は達成度評価の結果に応じた0-10点加点分を含み100点満点とし換算する。</p> <p>【課題レポート】20%</p> <p>各講義ワークシート等の内容、習熟度クラス別「こどもの発達プロセスへの援助レポート」の内容により評価する。</p>				
テキスト	<p>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 (1) 小児看護学概論 小児臨床看護総論」(奈良間美保他 医学書院)</p> <p>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 (2) 小児臨床看護各論」(奈良間美保他 医学書院)</p> <p>「母子健康手帳」(日本家族計画協会)</p>				
参考図書	<p>「小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助」(二宮啓子・今野美紀編 南江堂) (※)</p> <p>「小児看護技術 子どもと家族の力をひきだす技」(二宮啓子・今野美紀編 南江堂) (※)</p>				

備 考	<p>課題内容の詳細は第1回ガイダンスで説明するので必ず出席のこと。 本科目の単位取得は「母性・小児看護学実習」の履修前提条件である。 各教員のオフィスアワーについては、履修案内「オフィスアワー」の項を参照すること。 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。 各回の授業時に実施するワークシート等について、内容を確認後返却しますので、復習や試験準備に活用してください。</p>
授 業 計 画	
第1回	ガイダンス・小児看護学概論 こどもの看護における対象理解 【講義】(篠木)
第2回	こどもの権利と小児看護【講義】(富岡・Guest Speaker 小児看護専門看護師)
第3回	こどものヘルスアセスメント【講義】(富岡)
第4回	こどもの成長・発達<身体機能>【講義】(小林)
第5回	こどもの生活と看護1<活動と休息>【講義】(高山)
第6回	こどもの生活と看護2<食事と栄養>【講義】(岡田)
第7回	こどもの生活と看護3<消化・吸収と排泄>【講義】(岡田)
第8回	こどもの生活と看護4<認知・言語>【講義】(篠木)
第9回	こどもの生活と看護5<事故防止>【講義】(篠木)
第10回	小児保健・学校保健【講義】(富岡)
第11回	中間まとめ【達成度評価】(篠木、富岡、高山、岡田)
第12回	こどもの発達プロセスへの援助1<発達に応じた援助>【講義】(篠木、富岡、高山、岡田)
第13回	こどもの発達プロセスへの援助2<発達段階別健康課題>【演習】(篠木、富岡、高山、岡田)
第14回	こどもの発達プロセスへの援助3<健康レベルに応じた援助>【演習】(篠木、富岡、高山、岡田)
第15回	こどもの発達プロセスへの援助4<こどもと家族に応じた援助>【演習】(篠木、富岡、高山、岡田)